

モニターアンケート集計結果

1997年6月～1998年2月実施

はじめに

今回ご案内いたします「テクノAO」モニター調査は、昨年6月から本年2月にわたって、G病院・Nソフトウェア開発会社・パソコン関連社・Hビル管理会社のコンピュータ作業員及び新聞等を通じてテクノAOモニターに応募し当選された15名を含む合計116名（男性：51名、女性：29名、不明：36名）の方々のご協力をもとに実施し、当社が集計したものです。

実施要領は、コンピュータ作業員のテクノストレス自覚症状について、テクノAO使用前と使用2～3週間後の症状変化を、アンケート方式により集計したものです。

この集計結果のサマリーは下記の通りです。よりわかりやすくするために、本年3月に発表された武蔵工業大学経営工学科・渡辺健研究所による「テクノAO効果測定実験結果」（要約）と対比させてみました。

症状	モニター結果調査				武蔵工大・実験結果			
	症状訴え件数		改 善		症状訴え件数		改 善	
	使用前	使用后	件 数	%	使用前	使用后	件 数	%
肩こり	53	29	24	45%	30	16	14	47%
疲労感	52	27	25	48%	16	13	3	19%
充血	37	21	16	43%	17	8	9	53%
腰痛	36	23	13	36%	22	16	6	27%
頭痛	33	12	21	64%	18	9	9	50%
イライラ	33	23	10	30%	14	7	7	50%
その他	170	91	79	46%	329	192	137	42%
合計	414	226	188	45%	446	261	185	41%

1) 今回のアンケート方式によるモニター調査は、上記の表からもわかるように、総じて武蔵工大での「テクノAO」効果測定実験結果とほぼ同様の結果となっています。

2) 具体的には、モニター調査でのテクノストレス訴え症状数は、テクノAO使用前で合計414件ありました。それがテクノAO使用后には226件と188件減少しました。このことは、作業員のテクノストレス症状が45%改善したことを示し、武蔵工大の症状改善率41%とほぼ符合した内容となっています。

すなわち、テクノストレス3ないし4症状を有する作業員が、テクノAOの防護作用により1ないし2ストレス症状から解放されたことを示しています。

3) モニター調査で、テクノストレスとして訴えた症状を多い方からみると、肩こり・疲労感・充血・腰痛・頭痛・イライラの順となります。この中で、疲労感・イライラの神経心理的症状を除き、比較的テクノストレス症状として自覚しやすいと思われる肩こり・頭痛・目の充血に関して、今回のモニター調査結果をみても、症状を訴えた方々の役半数が快復しております。

最後に、今回のモニター調査にご協力いただきましたの方々および、その関係各位に厚く御礼申し上げます。

以上

1998年7月吉日
株式会社 テクノAOジャパン
